

子どもの貧困と格差について 話題にしましょう

子どもの貧困は、今まで隠されてきました。政府は、子どもの貧困率も明らかにしていません。OECD調査では、先進国の多くの国が貧困率を下げる政策を実施し効果をあげている中、日本の子どもの貧困率は上がっているのです。憲法や児童福祉法にも反する状況の共通認識から始めましょう。職員会議で、保護者会で、教育懇談会で、さまざまな集会や集まりの場で、子どもの貧困を話題にしましょう。



2つの署名運動にとりくみましょう

「有権者ではないけれども主権者です」昨年、大阪の私学の高校生が、橋下知事に訴えました。今年も、ゆきとどいた教育を求める全国署名にとりくみます。国に対してと都に対しての教育署名です。授業料の助成、返済不要の奨学金制度、30人学級実現、私学助成の増額などを求める署名です。昨年度入試は、不況の影響で、都立しか受験しない子どもが増え、都立高校の受験倍率がアップ、二次募集枠の拡大を求める要請を行ってきましたが、たくさん子どもが定時制に最後の望みをかける事態となりました。多摩地区では、定時制の倍率が1.7倍となり、進学を希望しながら行き場のなくなった子がたくさん出てしまいました。高校問題研究会とともに、都知事と教育長宛の「希望するすべての子どもたちの高校進学を保障するための要請署名」にとりくみます。

緊急会議を連絡会議に発展させ、「子どもを守る」運動を推進、広く都民にも発信していきましょう

以上の提言を提言だけに終わらせない決意をこめて、この集会を出発点に、「子どもを貧困と格差から救う」とりくみを学校で、地域で、職場で、すすめ、広げましょう。今日参加した方は、ぜひ、そのネットワークの核になってください。今後、「緊急会議」を「連絡会議」として、運動の推進母体にしていきたいと思います。今日、報告や発言の中で出されたとりくみや活動をみんなのものにし、応援・推進していくとともに、今日参加されていない諸団体にも広げていく、都民に発信していくことにとりくみます。

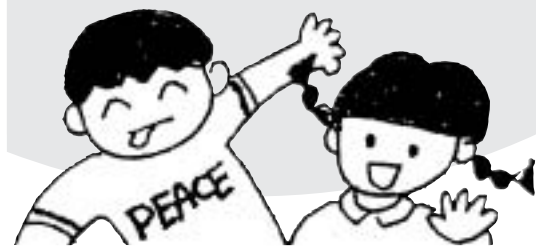


緊急会議の報告者のみなさん

子どもを 貧困と格差から 救う緊急会議

からの提案

子どもを 格差から 救うために 私たちが できること



学校で、義務教育無償の実現に向けて、父母負担を減らす工夫をしましょう

「受益者負担」「自己責任」という言葉が、子どもや保護者に重い負担を押しつけ、教職員の感覚を麻痺させていないでしょうか。本来、義務教育は無償でなければならないという大前提をどれだけ実践するか、学校の工夫でできることをやりませんか。教材はできるだけ校費で買う、買わないで貸し出す・作る・集める・融通しあう、遠足や修学旅行を安く上げる、制服のリサイクルにとりくむ...やっている学校はたくさんあります。父母負担を減らす工夫を広げましょう。教員の意識改革、事務職員を含んでの情報交換、PTA等との共同をすすめていきましょう。合わせて、自治体に教育費の増額や教材費、給食費などへの補助を求めていくことも必要です。

自治体に緊急対策を求めましょう

経済危機の中で、文科省は3月に、経済的に就学困難な子どもの就学援助について、年度途中でも速やかに認定し援助することなどを求める通知を出しました。また、補正予算案には、「高校生の授業料減免・奨学金事業に対する緊急支援」が盛り込まれました。各自治体でも、就学援助制度などの周知に努めるとともに、緊急に「入学支度金」や「育英資金貸与」を行ったと報道されています。

そこで、今、各自治体に対して、「景気悪化から子どもたちの学ぶ権利を守る緊急対策についての調査」を依頼しています。すでに、いくつかの区、市から、給食費の補助、保護者負担の軽減などにとりくんでいるとの回答が寄せられています。緊急会議の中でも、板橋区や府中市のとりにくみから学ぶことができました。

各自治体のとりにくみをつかむとともに、優れたとりにくみを全都に知らせ、要求し広げる運動をすすめましょう。

子どもの貧困の背景にある雇用問題にもとりくみましょう

家庭を子どもの最良のセーフティネットに。派遣問題、最賃問題、働くルールを求める運動などの雇用問題にもとりくみましょう。



5・1メーデーにて

就学援助や奨学金制度などについて必要な家庭に知らせましょう。自治体に制度の拡充をもとめましょう

就学援助の受給率が全国で高まっている中、東京では、2004年度の24.8%をピークに減少し始め、2007年度には23.3%になっています。国の財政措置が補助金から一般財源化されたことで、自治体の基準が改悪されたのではないかと、個人情報保護法のためとして、学校で行っていた手続きを役所と直接行うようになったからではないかなどが考えられます。不況の中、家計が厳しくなっている家庭は増えているはずであり、必要な家庭に必要な援助がされるためにとりくみを行いましょ。

また、高い授業料に悩む高校生・大学生には、給付型の奨学金が求められています。貸付では、卒業と同時に借金を背負うことになってしまいます。どの子もお金の心配をしないで進学できるように制度を求めます。

